

予測 (Prediction) (紙芝居)

□所要時間	90 分程度 (分割可)
□主なスキル	スピーキング&ライティング
□形式	例) 4 人のグループ
□概要とねらい	
純粋にストーリーを読む、聞くことは楽しいものですが、stimuli (この活動では最初の 1~2 文) を提示して、自分たちのアイデアや想像力を羽ばたかせるオリジナル・ストーリーの創作も楽しいものです。通常の予測の場合、展開を予想しながら読む (本を読むことは単に情報を受け取るだけでなく読者も能動的に展開を予想しながら内容理解を行っているということを示す) のが目的ですが、このアクティビティでは、物語の出だし文から喚起されるイメージから物語を予測することで、アウトプットの促進を目的とします。 - この活動では、正確な文法、語彙、表現を追い求めることを目的にせず、自分の「手持ち」の単語や表現を使って作文することで、ライティングの流暢さを高めます。 - 創作したストーリーを紙芝居という形で発表することで、絵が足場掛けになり英語での表現伝達がしやすくなり、スピーキングの流暢さを高めます。 - 英語が苦手な学生でも、発想力がある、絵が上手など、それぞれが得意なことで役割を担いグループに貢献します。そのため、自己肯定感を高める学習環境を整えることができます。	
□事前準備 (必要な教材、器具など)	
- ストーリー予測に用いる本 1 冊 - メモ用紙 - 紙芝居用の用紙 (B4, A3 の画用紙 4~6 枚)、マーカー等	
□手順	
1. ストーリーを予測する本の冒頭 1~2 文だけを、書画カメラ等で示します。 2. グループごとに、一人ずつ順番に冒頭の文に 1~2 文加えて書き加え、ショート・ストーリーを完成させます。必要に応じて教員は作文の助言を行いましょう。 3. 完成させたストーリーを 4~6 シーンに分け、一枚ずつ絵を描いて紙芝居を作成します。マーカー等を用いますが、事前準備が出来れば、他の彩色 (色鉛筆、クレヨン等)、コラージュ法を用いても良いでしょう。多様な表現を楽しめます。 4. 完成させた紙芝居を用いて、グループ内で発表リハーサルをする。非言語による表現を十分に考えることを学生に助言します。(例) 声の大きさ、表情、速度、ポーズ、紙送りのタイミング、効果音など 5. 隣のグループを観客にして発表します。発表後、互いにコメントしあい、振返りを行	

います。良かった点に加え、「こうすると、より良くなる」という点も含めるよう指示する。時間が許す場合は、次回授業でクラス全員に向けて発表してもよいでしょう。

【学生の反応】

- グループの数だけ違った構成やストーリーがあり、いろいろな展開が面白かった。
- 縛りがあっても、内容や表現方法で違いが生まれ面白かった。
- 一つのものから連想させて紙芝居を作る作業は難しかったのですが、考え方を広げる機会であり、面白かった。
- 発表方法もさまざま楽しめた。
- 視覚と聴覚どちらも楽しめた。
- ストーリーを作る難しさを感じた。

【応用・解説】

このアクティビティに適した図書の例

It Might be An Apple by Shinsuke Yoshitake（本 HP 絵本紹介記事参照）

【事前アクティビティ】（推量の助動詞 *might* を用いたゲーム感覚の作文）

1. ○、△、□などの図形を黒板などに示し、*might* を使った文を提示します。例えば、
○ならば、*It might be the moon. It might be a dish.* など。
2. それぞれの図形に何かを加えて、*It might be...* の文章をペア/グループで作ります。
3. 推量の助動詞の文法ポイントを解説します。

【予測（紙芝居）】

It Might be An Apple は以下のように始まります。上記手順のようにアクティビティを進めます。

One day, I arrived home from school...

Hey, what's that?

On the table sat an apple

But it might not be an apple at all.

【事後アクティビティ】

- 例 1. 紙芝居のために書いたストーリーを確認し、より正確な文章に書き換えます。
- 例 2. ストーリー予測に用いた本を読み、自分たちがつくったストーリーと比較する。
- 例 3. アナログな紙芝居を写真撮影し、スライドショーにします。ナレーションを加え

て発表します。

【その他備考】

The Adventures of the Dish and the Spoon by Mini Grey（本 HP 絵本紹介記事参照）も物語の続編を考える「予測」に適しています。

（文責：草薙優加）